

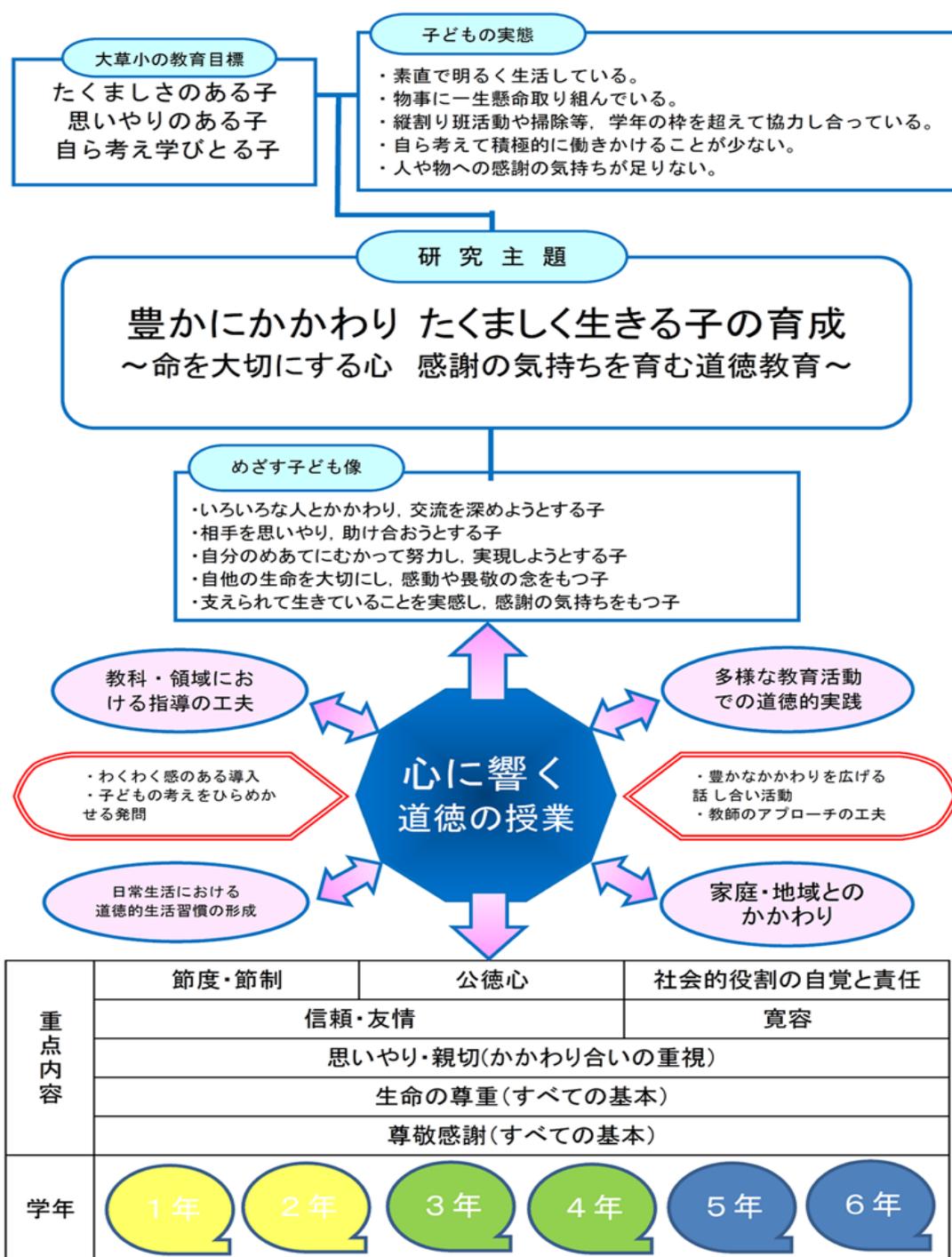
県研究指定校事業(道徳教育)

- 1 研究指定校 田原市立大草小学校
- 2 研究主題 豊かにかかわり たくましく生きる子の育成
～命を大切にすること 感謝の気持ちを育む道徳教育～

3 研究概要

大草小学校は、愛知県教育委員会より1年間の研究委嘱を受け、平成23年4月から研究主題「豊かにかかわり たくましく生きる子」の育成に取り組んできた。「命を大切にすること 感謝の気持ちを育む道徳教育」をサブテーマとして、「心に響く道徳の授業」を中核に、教科・領域における指導の工夫、多様な教育活動での道徳的実践、日常生活における道徳的生活習慣の形成、家庭・地域とのかかわり等のあらゆる方面において、命とふれ合う機会、命について考える機会を設定し、子どもたちが命の大切さを実感し、感謝の気持ちをもつよう努めた。研究構想は下記の通りである。

- (1) 研究構想
- (2) 研究の内容



- ① 心に響く道徳の授業にするため、道徳の時間の指導を質的に高める。
 - ア ねらいの設定と資料の選択・分析を大切にする。
 - イ わくわく感のある導入のあり方を研究する。
 - ウ 資料が子どもに十分理解され、心に響くような提示の方法を工夫する。
 - エ 中心発問でじっくり考えさせるため、基本的な発問を精選する。
 - オ 教師の切り返しのあり方を研究する。
 - カ 学習活動の工夫として、ワークシート、役割演技、動作化、小集団での話し合い等を取り入れる。
 - キ 終末段階で余韻を残すための工夫をする。
- ② 教科・領域における指導の工夫をする。
- ③ 多様な教育活動での道徳的实践を推進していく。
- ④ 日常生活における道徳的生活習慣の形成に努める。
- ⑤ 家庭や地域との関わりを通して、命を大切にする心や感謝の気持ちを育てる。
- ⑥ 豊かにかかわるための表現力の育成に努める。

(3) 研究の実践

月	内 容
4	・全体会（研究テーマと研究方法） ・組織・年間計画・研究課題の検討
5	・全体会 ・部会 ・研究課題の検討
6	・研究授業2年「くまくんのたからもの」2-(2) 思いやり・親切（東京書籍） 現職研修全体会 研究協議会開催
7	・研究授業5年「ヒキガエルとロバ」3-(1) 生命の尊重（日本文教出版） 現職研修全体会 研究協議会開催 講師招聘
8	・教材の開発 ・環境整備
9	・研究授業3年「すきやもん」2-(2) 思いやり・親切（光村図書） 現職研修全体会 研究協議会開催
10	・全体会・部会（指導案検討） 海とふれあう会（大草の海に感謝する会） 赤ちゃんふれあい体験学習（命の大切さに気づき、家族に感謝する会）
11	・研究授業1年「だいすき アンパンマン！」2-(4) 感謝（学校図書） 現職研修全体会 研究協議会開催 講師招聘
12	・研究授業4年「生きているしるし」3-(1) 生命の尊重（日本文教出版） 現職研修全体会 研究協議会開催 実践記録・教育論文作成
1	・研究授業6年「トイレの神様」4-(5) 家族愛（教育出版） 現職研修全体会 研究協議会開催 研究のまとめ
2	・全体会・部会（研究のまとめ）
3	・本年度の反省と来年度の計画

4 研究の成果

1年間という短い期間であったが、本研究を通して、次のような成果が認められた。

(1) 道徳の授業における成果

①子どもにおける成果

- ・ 道徳の授業を楽しんでいる子どもが増えてきた。また、道徳の授業を大切だと思ひ、真剣に取り組む姿が見られるようになった。
- ・ 「生命の尊重」と「尊敬感謝」の2つを道徳の授業の重点内容として設定し、道徳年間指導計画に重点的に位置づけたことが、「命を大切にする心」、「感謝の気持ち」を育むことにつながった。
- ・ 読み物資料において、主人公をはじめとする登場人物の心情に共感しながら読み進めることができるようになり、自分に置き換えたり、自分を振り返ったりしながら考えることができるようになってきた。
- ・ 自己評価や相互評価を意図的に取り入れた結果、自分を振り返ることになれてきて、自分を見つめる力が少しずつではあるがついてきた。また、友達の良さに気づ

いたり、それを相手に伝えられたりする子も少しずつではあるが増えてきている。

- ・ 一枚絵の提示，大きな写真の提示，具体物の提示，クイズ，赤ちゃんの泣き声，教師のパフォーマンス等，「わくわく感のある導入」を工夫したことにより，子どもたちがねらいとする価値や資料の世界の方向を容易に把握することができた。
- ・ 学習活動の工夫として，ワークシート，役割演技，動作化，小集団での話し合い等を取り入れたことにより，資料中の登場人物への同化が容易となった。
- ・ 資料から離れ，自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる展開後半において，「できた自分」だけでなく，「できなかった自分」をふり返らせたことが，「価値の一般化」を可能にし，道徳的な実践意欲や態度の育成につながった。

②教師における成果

- ・ 全担任が研究授業を実施し，全職員参加による研究協議会を行ったことが，教師の力量向上につながった。そして，そこで培った授業の組み立て方，適切な教師の働きかけや援助などは，他の授業にも応用することができた。
- ・ 研究授業の回を重ねる度に，資料の扱い方や授業のパターンなどが身に付き，毎週の道徳の授業においても，見通しをもって取り組めるようになった。
- ・ 「心に響く道徳の授業」を支える資料の充実を図ることができた。

(2) 教科・領域における成果

生活科や総合的な学習の時間，体育科保健領域での学習，学級活動等において，道徳の時間との双方向的なかかわりを重視して指導することにより，子どもたちの道徳性を涵養することができた。特に成果が見られた実践を下記に紹介する。

- 1年 道徳・生活科 「『ありがとう』をつたえよう」
- 4年 道徳・総合・保健学習 「たったひとつのたからもの」
- 6年 道徳・学級活動 「赤ちゃんふれあい体験学習」

< 6年「赤ちゃんふれあい体験学習」の学習内容 >

- ①お母さんのお腹の中で大きくなっていく胎児の様子を知る。
- ②妊婦体験用のおもりをお腹に入れ，階段を昇降したり，掃除をしたりする。
- ③赤ちゃん人形で，赤ちゃんの抱き方，あやし方を練習する。
- ④子育てをするお母さんやお父さん，家族の気持ちについて話し合う。
- ⑤大草校区の赤ちゃんふれあい，愛しむ気持ち，命の大切さを感じる。
- ⑥持ち寄った写真をもとに，自分が赤ちゃんのころのエピソードを発表する。

この学習を通して，6年生の子どもたちは，赤ちゃんが誕生することのすばらしさや家族の中で大切な存在として育てられてきたことを実感した。同時に，自分や友達の命の大切さにも気づき，家族に感謝する気持ちが芽生えた。

(3) 多様な教育活動における成果

道徳教育は教育活動全体を通して行うものである。そこで本校では，道徳の授業の充実を図ることと合わせて，直接体験することによって，子どもたちが道徳性を高めていくことをねらい下記のような実践を行った。「命を大切に作る心」「感謝の気持ち」を育むのみでなく，学習対象や学級の友達とのかかわりを深め，たくましく生きる子を育成することができた。特に成果が見られた実践を下記に紹介する。

- ①飼育活動・・・3・4年生による年間通したウサギの飼育活動
- ②野菜の栽培・・・一人一人が育てたい苗を選択して育てる野菜栽培活動。
- ③縦割り班活動・・・1～6年生が年間を通して豊かにかかわり合う活動（下記参照）

一人二鉢・・・自分たちの手で育てたパンジーで，卒業式の日体育館を飾り，感謝の気持ちを届ける。

さわやかタイム・・・縦割り班のメンバーで協力し合い，構成的エンカウターのゲームを楽しむ。

大草タイム・・・班対抗のすもう大会。男女に別れ大草場所を実施する。

<p>春の遠足・・・・・・保育園，熟年友の会と合同でイチゴ狩りを楽しむ。 縦割り班オリエンテーリングで大草校区を巡る。</p> <p>運動会・・・・・・縦割り班対抗全員リレーや大草ハリケーン等のゲームを通して，一致団結して競い合う。</p> <p>海とふれあう会・・・保育園，地域の方と一緒に地引き網を楽しむ。 大草の海の恵みに感謝する気持ちを高める。</p>	<p>長なわとび集会では，3分間の一斉とびの回数を競う。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------

これらの活動を通して次のような成果が見られた。

- ・ 異学年や幼稚園，地域の人たちと豊かにかかわることによって，他の人の思いを受け止めたり，大切にしたり，協力しようとしたりする態度がひろがってきた。
- ・ 自己表現が苦手な児童が多かったが，縦割り班のメンバーで協力し合い，構成的エンカウンターゲームを楽しむ中で，みんなの前で話をしたり，友達の意見を聞いたりする力がついてきた。

(4) 日常生活における成果

- ・ 子どもたちが道徳の時間に学んだことを日常生活の中で生かしていけるように，教師は意識して生活指導や学級経営を考えるようになった。
朝のあいさつ運動・・・・・・「おはようの輪を広げよう」（児童会主催）
昼のあいさつ運動・・・・・・配膳室の用務員さんへ感謝のあいさつ（担任指導）
大草の話し方名人・聞き方名人・・・話し方，聞き方のルールをもとに，言語環境を整え，互いを思いやる言葉使いをする。

(5) 家庭・地域における成果

- ・ 学校，家庭，地域社会の3者が，「共に子どもの成長を支援する」という方向で連携していくことが大切であることを改めて確認できた。
交通安全見守り隊の協力・・・・・・地域の方が自主的に子どもたちの登下校に付添い，子どもたちの安全を見守る。
行事への参加者の増加・・・・・・運動会・学芸会・大草音楽集会・入学式・卒業式等の行事に参加する地域の方々的人数が年々増加している。

5 今後の研究計画（今後の課題）

「豊かにかかわりたくましく生きる子」を研究主題として取り組んできた結果，下記のような課題が明らかとなった。

(1) 心に響く道徳の授業

- ・ 道徳の授業を中心に研究を進めてきたが，必ずしも毎時間の道徳の授業が子どもの心に響くものになっているとはいえない。毎時間の道徳の時間が，本当に子どもたちの心に響き，道徳性を高めていけるものとなるように，読み物資料のさらなる分析や指導方法の工夫を重ねる必要がある。

(2) 教科・領域における指導の工夫，多様な教育活動での道徳的実践>

- ・ 毎時間の授業で育てたい力を系統的に分析し，今後は個に応じた指導に生かしていきたい。
- ・ 認め合い学び合いの場や体験活動の場，交流の場を継続的に確保し，児童の道徳性をさらに高めていきたい。

(3) 日常生活における習慣形成

- ・ 日々の授業や活動の中で，友達の話を聞く姿勢ができつつある。さらに子どもの発達段階に応じたコミュニケーション能力の充実を図り，豊かにかかわりあえる基盤作りをしていきたい。
- ・ これまで取り組んできた「かかわり」を重視した取組を基盤にして，人との「つながり」を大切にしたい教育活動を更に工夫し実践していきたい。

(4) 地域・保護者との連携

- ・ 学校・家庭・地域社会の三者が連携していくために，学校からの情報発信を今まで

以上に積極的に行うとともに、家庭・地域社会からの期待や願いも受信し、双方向で
かかわる場をこれまでもまして大切にしていきたい。